

WHOと協力 診療所開設へ

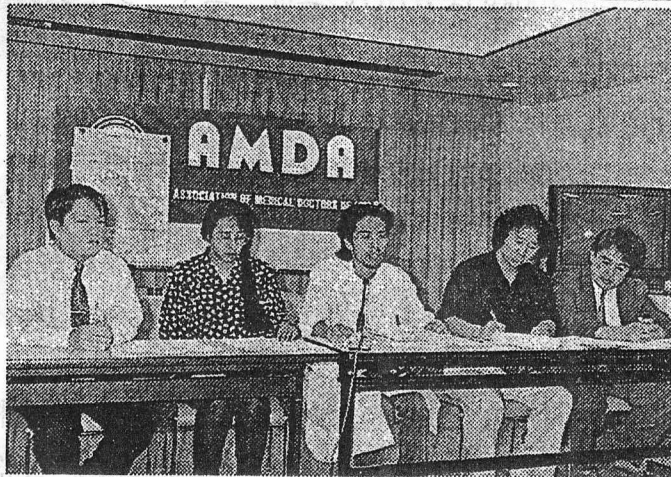
AMDAのイラン派遣者帰国

大地震が発生したイランと、サイクロン（熱帯低気圧）に見舞われたバングラデシュで、それぞれ救援活動を行ってきたアジア医師連絡協議会（AMDA）のメンバー五人が六日、岡山市檜津のAMDA本部で現地報告をし、イランについては今後、WHO（世界保

健機関）と協力し、七月にも救急医療が可能な診療所の建築に着手することを明らかにした。

イランでの診療所は、震

源地の同国ホラサン州内に建築する予定で、WHOから約千二百万円の資金協力が得られることになっているという。



イランの現状などを報告する塚本医師
(中央)ら＝岡山市檜津、AMDA本部

イランから帰国したのは医師の塚本勝之さん(三九)＝静岡県浜松市＝と調整員の佐藤真治さん(三三)＝岡山市平和町＝ら三人。報告によると、三人は地震発生(五月十日)直後の同十五日に震源地の同国東部へ入り、約二十日間にわたり持参した医薬品を配布した。

佐藤さんらは「被災者の健康回復のためには公衆衛生面での予防活動が重要。子供や高齢者のストレスが深刻で、精神的サポートも欠かせない」と長期的な支援の必要性を報告した。

バングラデシュでは、看護婦竹原美佳さん(三九)＝岡山市檜津＝ら二人が、サイクロン発生後の五月二十三日から約十日間、救援活動をした。竹原さんは「サイクロンの影響で飲料水が汚れ、住民にはおう吐、下痢がまん延している。迅速な救援体制が必要」と訴えた。